

学会彙報

○昭和五十九年度大塚漢文学会大会

六月二十三日(土)

於 東京都教職員互助組合教育会館

〔研究発表〕

一、章炳麟について

— 戊戌政変から義和団事件までを中心に —

群馬工業高等専門学校 阿川 修三氏

一、身体部位名詞について

明治大学 相原 茂氏

一、韓愈の詩に見る攻撃性の変容について

筑波大学 松本 肇氏

一、東漢の「読為」について

筑波大学 堀池 信夫氏

一、白先勇論

筑波大学 樋口 靖氏

一、陶淵明の年譜上の問題点について

— 鎮軍参軍のことをめぐって —

身延高校 上田 武氏

〔漢文教育シンポジウム〕

「高校漢文教育における教材について」

香川大学 谷川 英則氏

高田高校 金子 彰男氏

栃木高校 加藤 章氏

〔総会〕

一、開会の辞

二、議長選出 望月真澄氏を選出

三、委員長挨拶

四、諸報告

(1)総務企画、庶務

(2)会報編集

五、議事

(1)昭和五十八年度決算

(2)昭和五十九年度予算

(3)その他

六、閉会の辞

○月例会

昭和五十九年十一月四日(日)

一、陶淵明の「帰」をめぐって

筑波大学大学院 島田 弥生氏

一、杜甫の戯題詩について

お茶の水大学大学院 谷口真由美氏

昭和六十年二月十日(日)

一、庾信の銘をめぐる幾つかの問題

— 「思旧銘」を中心として —

筑波大附属高非常勤講師 中野 将氏

一、杜詩における「杖藜」について

筑波大学 松本 肇氏

内山委員

加賀委員長

向島委員

伊藤委員

中村(俊)委員

中村(俊)委員

水沢委員

大塚漢文学会々則

- 一、本会は大塚漢文学会と称する。
- 二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
- 三、本会の会員は左の通りである。
 - 1、旧東京教育大学漢文学会々員であつて参加を希望する者
 - 2、その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
 - 1、総会 年一回
 - 2、例会 年約三回
 - 3、学会誌及び会員名簿の発行
 - 4、その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。
 - 1、委員長 一名
 - 2、委員 若干名
 - 3、編集委員 若干名
- 六、役員の仕事
 - 1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
 - 2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
 - 3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
- 七、役員を選出及び任期
 - 1、委員長は委員の互選による。
 - 2、委員は会員の互選による。
- 3 委員会が必要に応じて委員を委嘱することができる。
- 編集委員は委員会が委嘱する。

4 任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。

八、会員は会費年額三千元を納める。

九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならぬ。

附則1、本会は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学会々則に代つて発効する。

2、本会の事務所を当分の間筑波大学文芸言語学系中国文学研究室に置く。

編集委員(委嘱)

(哲学・思想) 小林 信明・加賀 栄治・水沢 利忠
 (文学・語学) 鈴木 修次・内山 知也・伊藤 虎丸
 (漢文教育) 鎌田 正・金子 泰三・田部井文雄

漢文学会会報第四二号

大塚漢文学会

昭和六〇年六月一〇日印刷
 昭和六〇年六月二二日発行

編輯者

伊藤 虎丸・諺口 明

大上 正美・佐治 俊彦

安藤 信広・阿川 修三

印刷所

株式会社 共立社印刷所
 電 (201) 二〇二八

発行所

茨城県新治郡桜村
 筑波大学文芸言語学系内(千三〇五)
 大塚漢文学会